

美和台校区における緊急事態宣言下の生活意識分析と 自治会施策への検討

高 木 昇

〔要 旨〕

美和台校区自治協議会は、同校区住民に対して、新型コロナウイルス禍による緊急事態宣言下の生活意識調査を実施した〔美和台校区自治協議会、2020〕。この調査は、緊急事態宣言解除後に、新型コロナウイルス感染流行の新たな波が到来することで行政が住民に対して再び外出自粛等の生活制限を要請すると仮定した場合に、同校区自治協議会、特に社会福祉協議会（以下「美和台社協」）が独自に住民に対して可能な施策を検討することを目的とした。

本研究は、この調査をもとに、校区住民が生活制限下に希求する内容の把握と、美和台社協によるソーシャルビジネスへの適用に関して考慮すべき事柄の考察を目的とする。

1. はじめに

新型コロナウイルスは令和2年1月に国内第1例目の患者発生以来、4月7日に政府より緊急事態宣言が発令され、全国民が不要不急の外出の自粛を要請されたが、9月13日現在まで75,218名の感染者数を国内に抱えている〔厚生労働省、2020〕。

福岡県では9月13日の時点で4,948名の感染が確認されており〔福岡県、2020〕、東京都（23,083名）、大阪府（9,636名）、神奈川県（5,959名）に続く全国第4位の感染者数となっている〔NHK、2020〕。

このような状況において、社会変化を問う意識調査が様々に行われたが、医療機関を含む事業所を対象としたリスク管理や事業継続性を主題とするものが多く〔産労総合研究所、2020-06-01〕〔小山史穂子、2020〕〔宏、2020-06〕〔新建築社、2020-05〕、市民生活の意識の変化を問うものは少ない〔ソフトプレーン・フィールド株式会社、2020〕〔株式会社サーベイリサーチセンター、2020〕〔経済同友会、2020〕。

全国の福祉関連法人でも意識調査を行っているが、その多くも事業所のリスク管理をテーマにしており〔京都府社会福祉協議会、2020〕〔全国ホームヘルパー協議会、2020〕〔公益財団法人さわやか福祉財団、2020〕〔東京ボランティア・市民活動センター、2020〕、地

域単位で生活者の意識を調査し、困りごとの解決を意図した例は同時期には見られない。

このような中、美和台校区社会福祉協議会（以下「美和台社協」）は、5月31日に校区住民全体を対象とする生活意識調査を行った。目的は、校区住民に対する独自の福祉行政サービスの可能性を見出すことにある。昭和50年の福岡市立美和台小学校開校とともに発足した美和台校区は、福岡市全147校区において高齢者（65歳以上）人口が4364名で第1位、高齢者人口構成比が28.0%で第9位と高齢化が顕著であり、過去10年間の出生数も福岡市平均を下回っている〔福岡市、2020〕。さらには東端と西端に鉄道駅を有する以外に校区内を網羅するバス路線を持たず、坂も多いために、「買い物弱者」対策も課題となっている。

2. 調査

調査内容 別紙1

属性、外出、体調、人間関係、家庭生活、今後の生活、その他（自由記述）

1 調査概要

- 調査対象 美和台校区6981世帯〔福岡市、2020〕
- 調査期間 令和2年5月31日～7月11日
- 調査方法 紙媒体および Google フォーム
- 有効回答数 1569（男性481、女性1088）

3. 集計結果

表1. 年代別の男女数（人）

| | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 90代 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 男性 | 6 | 44 | 81 | 67 | 124 | 107 | 44 | 8 |
| 女性 | 20 | 157 | 266 | 249 | 173 | 138 | 80 | 5 |

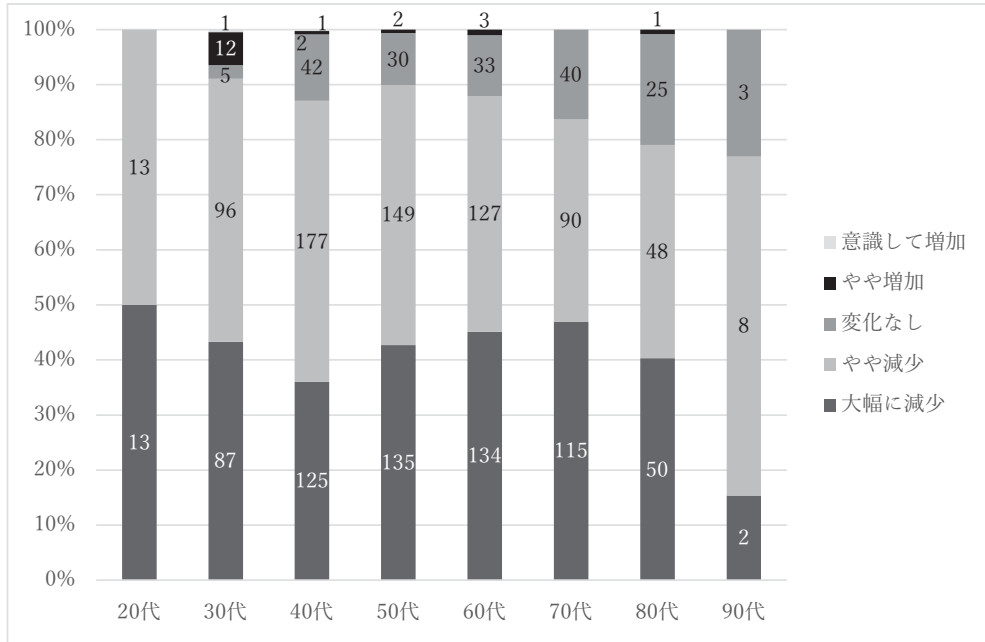


図 3-1. 外出回数の変化

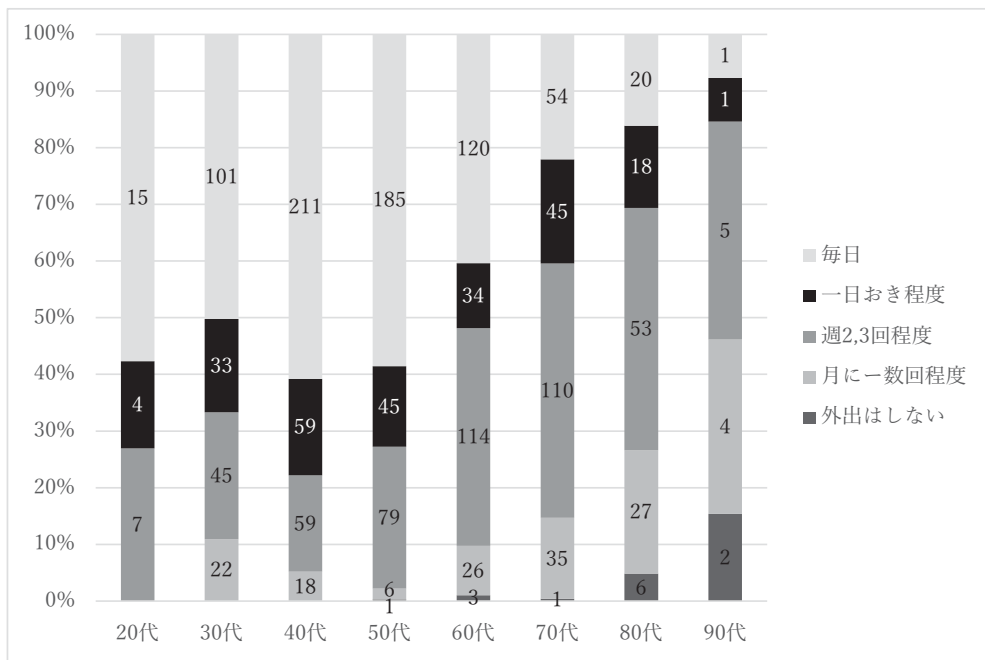


図 3-2. 外出頻度の変化

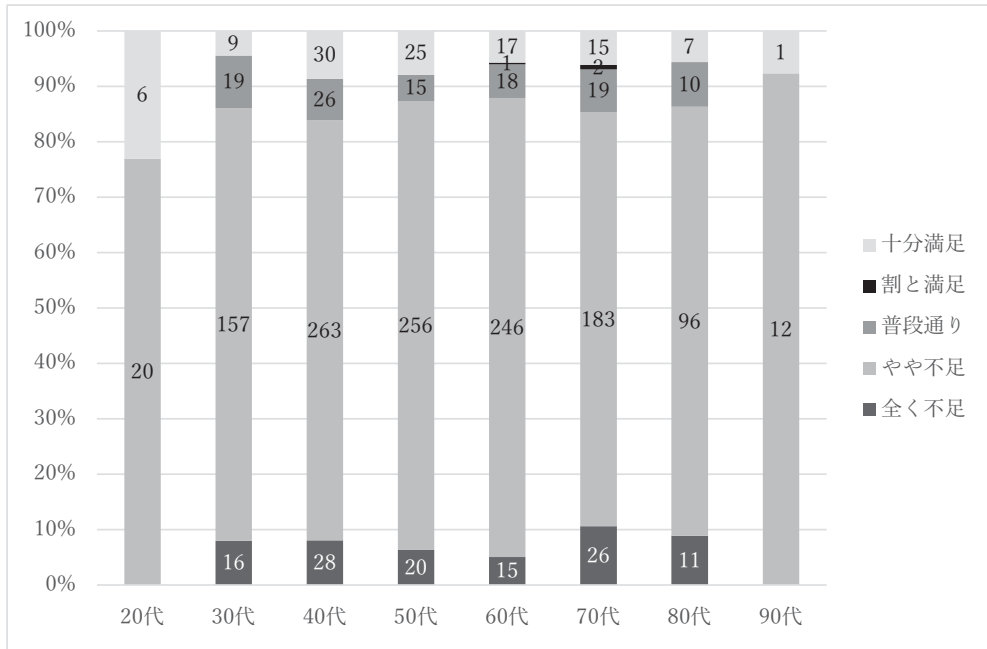


図 3 - 3. 食事に対する満足度の変化

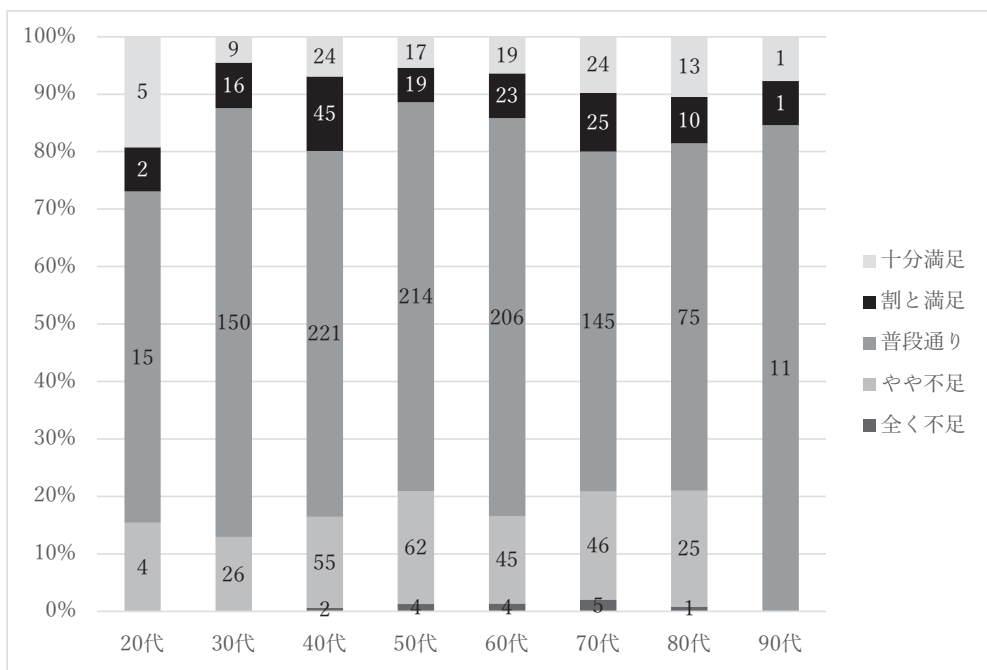


図 3 - 4. 睡眠に対する満足度の変化

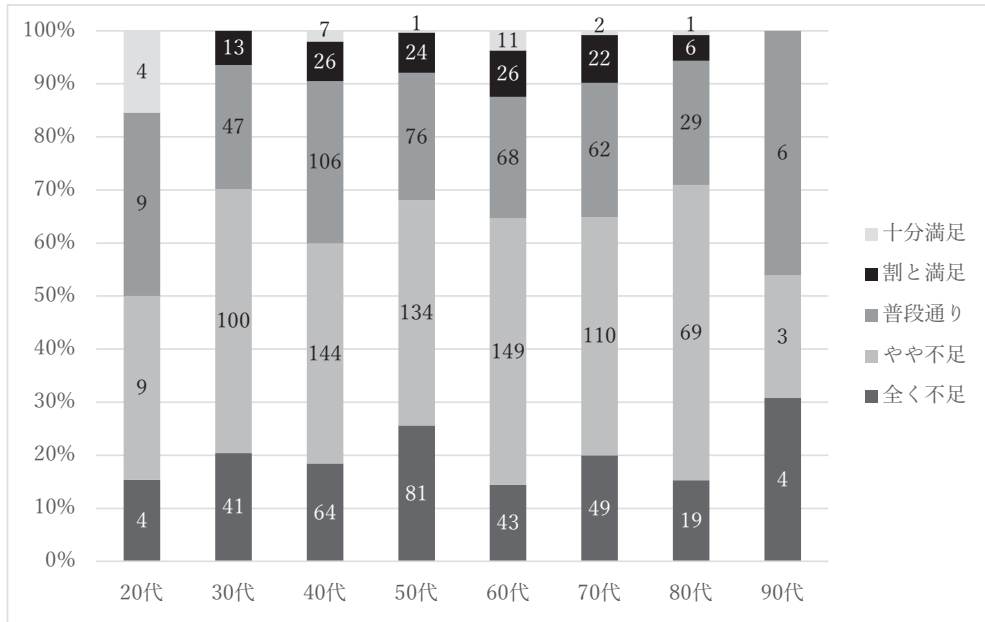


図3-5. 運動に対する満足度

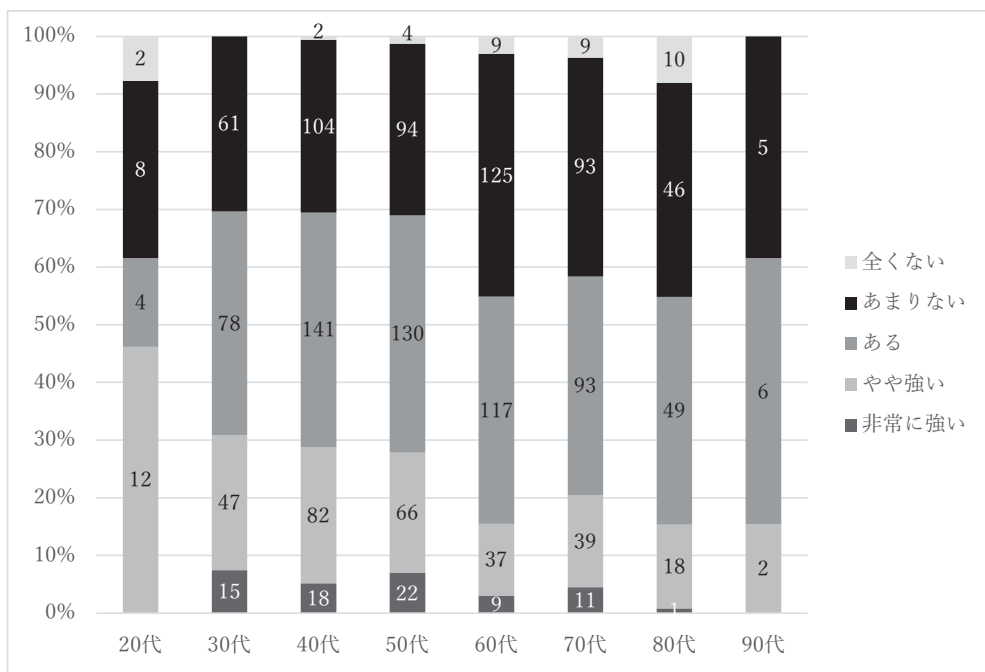


図3-6. ストレスの有無

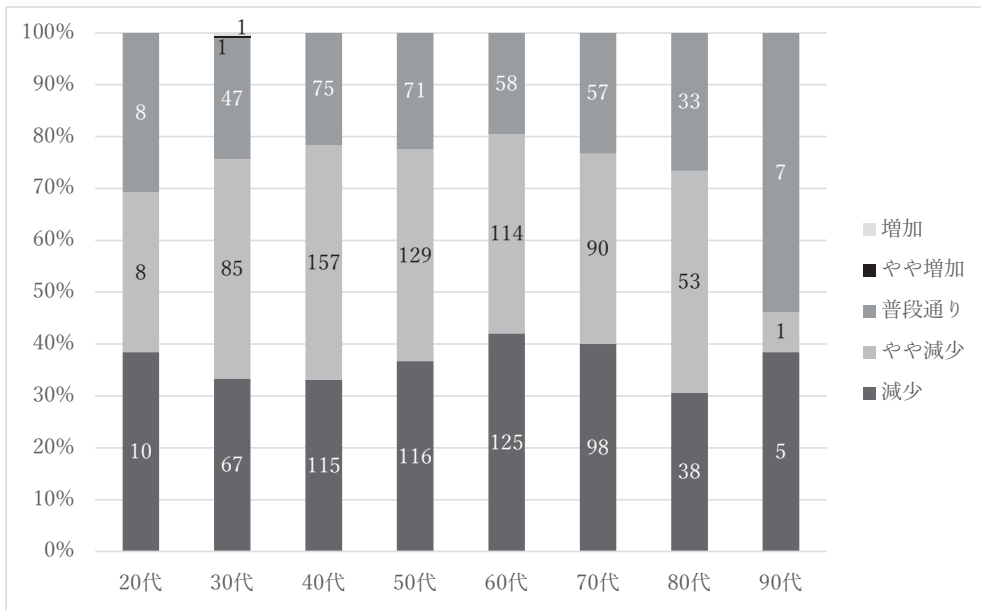


図3-7. 他人との会話の増減

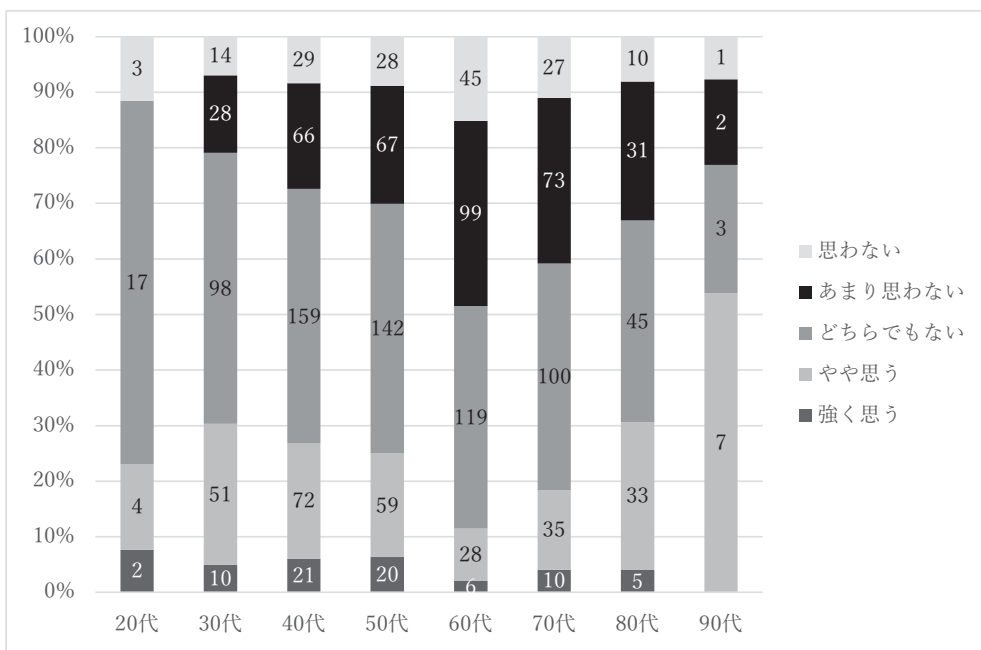


図3-8. 「頼れる人 (他人)」が欲しいと思うか?

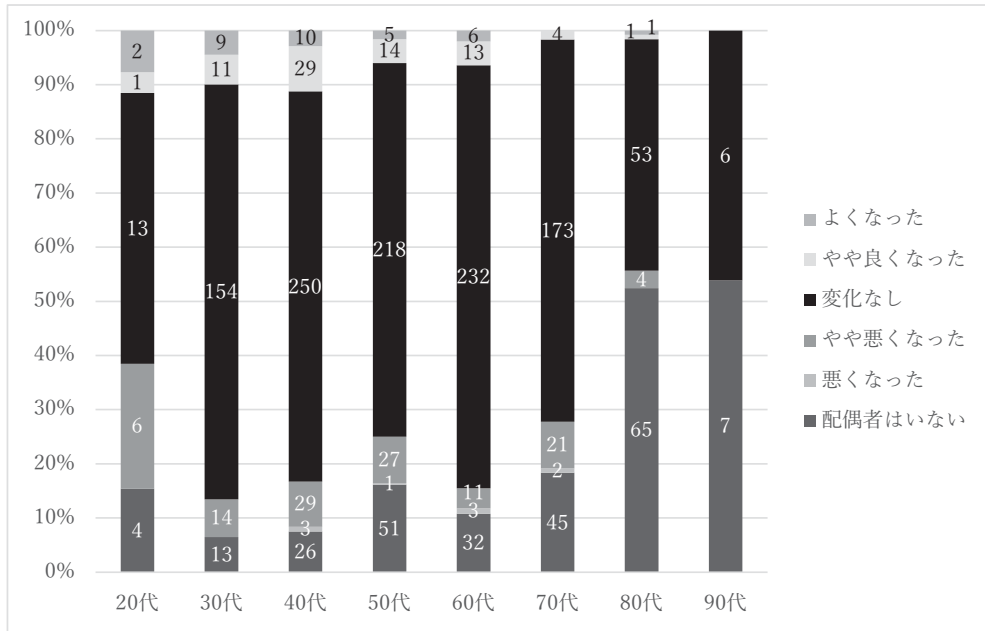


図 3-9. 配偶者との関係

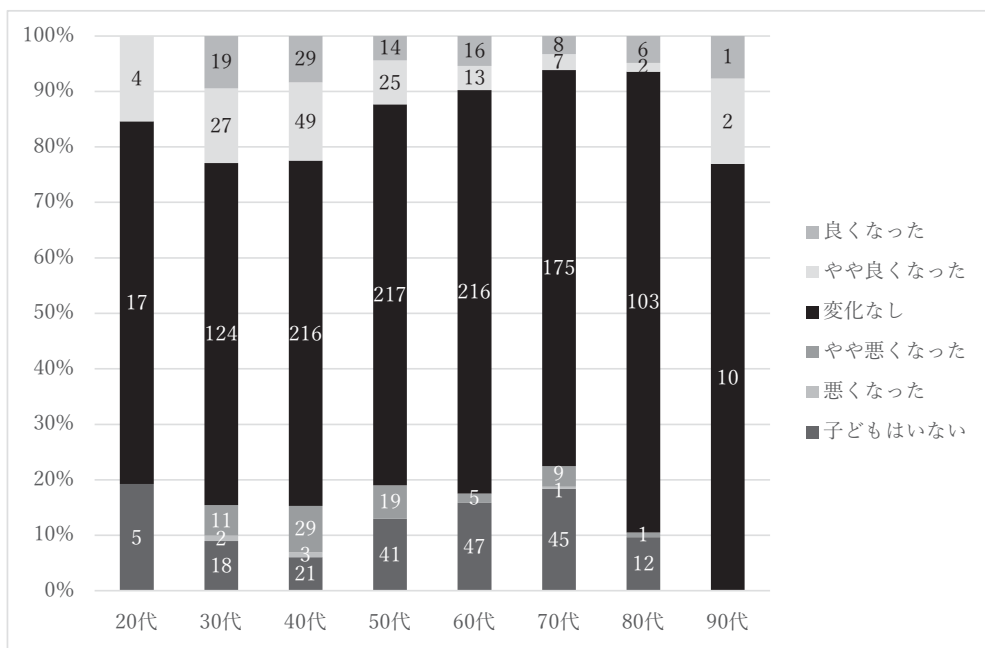


図 3-10. 子どもとの関係

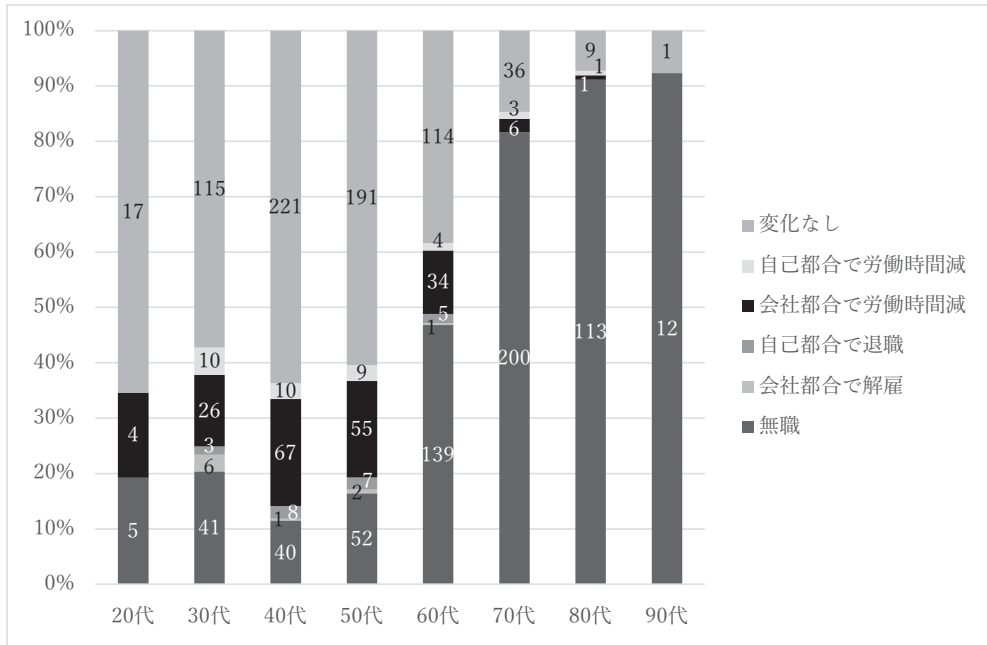


図3-11. 仕事における変化

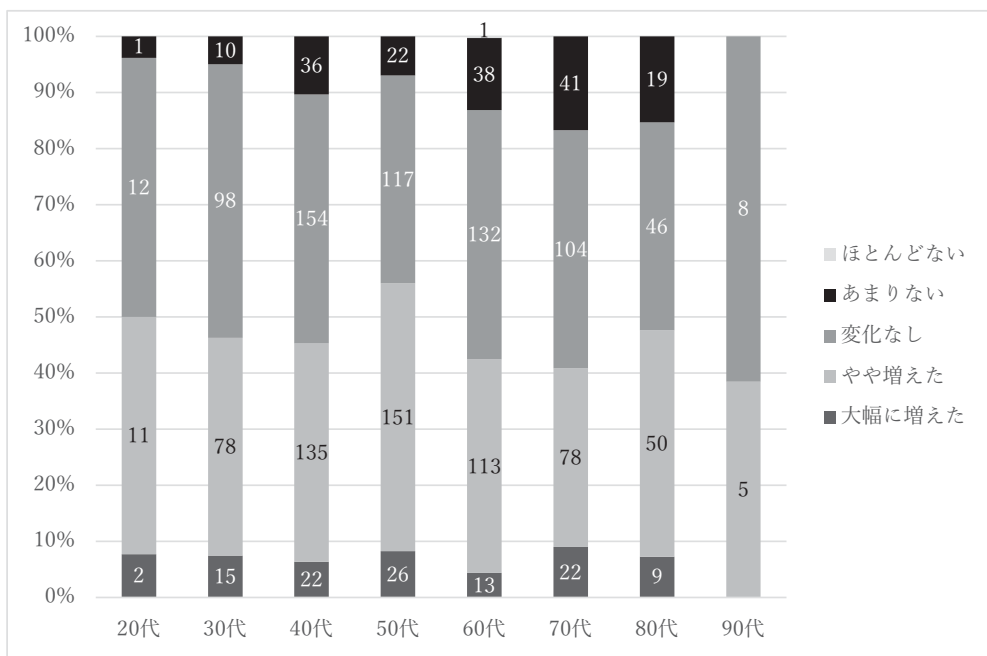


図3-12. 不安や悩みがあるか

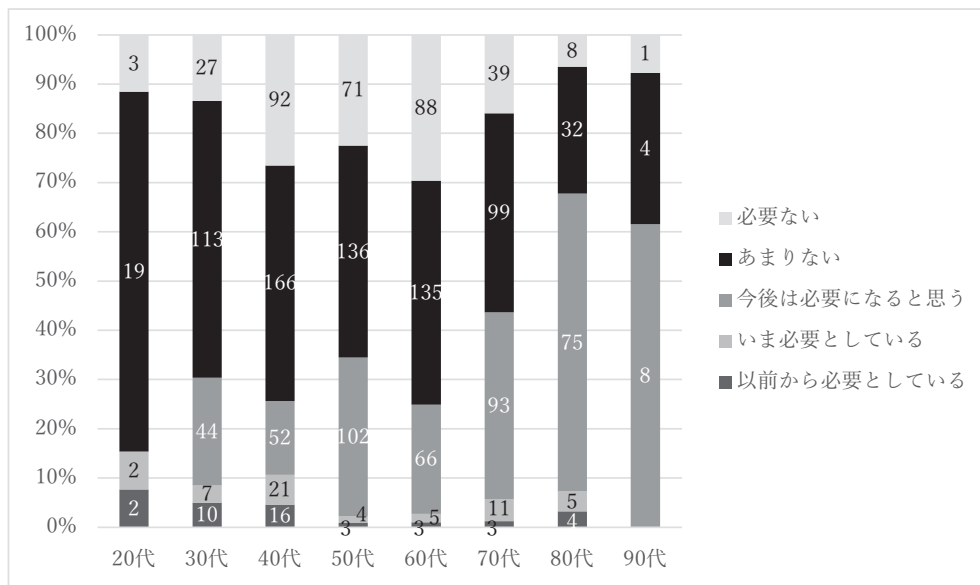


図 3-13. 支援の要望の有無

4. 集計結果に対する考察

外出回数減に伴い、他人との会話の回数が減り、不安や悩みが増えたことが一般的に認められるが、頼れる人を家族外に求めることや支援を求めることを急いで要望する状況にあるとは考えにくい。すなわち、不安や悩みとは、誰かの存在によって具体的に改善できるものというよりは、漠然とした第三者目線での「社会不安」に類し、必ずしも生活圏内にはない可能性がある。また、これらに運動を加えた項目以外に関してはネガティブな変化や状況にあるとは考えにくいことから、ストレスの原因は、野外で会話しながらの散歩に代表されるような、日常の運動の不足にあると考えられる。したがって、不安や悩みとストレスは、「ご近所さんとの軽い運動」が回復ないしは促進される状況になれば改善できると考えられる。

5. 仮 説

本研究の目的は美和台社協が主体として可能な施策を考察する点にあり、そのひとつは上記の企画・推進と推察することができる。一方で、現時点で支援を必要とする方々に関

しては、その特性を理解することで、他に必要な施策の考案につながる。そのため、下記の仮説をおく。

仮説 1. 「支援などのご要望」には高い相関を持つ質問項目がある

仮説 2. 「支援などのご要望」を独立変数とする説明変数が存在する

仮説 3. 支援を要望する集団を特定できる

仮説 4. 自由記述欄において、支援を要望する集団に特徴的な語句が存在する

6. 分析手法

仮説 1、2 は相関分析、仮説 3 は重回帰分析、仮説 4 は因子分析を、仮説 5 はテキストマイニングでよく見られる語句抽出と共起ネットワーク分析を用いた。仮説 1～4 に関して、順序尺度での回答は、ネガティブと考えられるものほど低い数とした。名義尺度に関しては、「家族構成」は未回答が多いため、「外出理由」は複数回答のため、分析対象から除外した。順序尺度の分析は R で、テキストの処理は MeCab で形態素分析を行い、語句抽出やネットワーク分析には、KH Corder を用いた。

7. 仮説 1 に関する分析結果

表 7-1. 相関があると認められる組み合わせ

| | |
|----------------------|---|
| 強い相関 (0.5以上) | なし |
| 弱い相関 (0.3以上0.5未満) | 睡眠-栄養、ストレス-運動、 会話-外出回数、頼れる人-ストレス、 仕事-外出頻度、不安-ストレス、 不安-頼れる人、支援-頼れる人、 支援-不安 |
| 弱い逆の相関 (-0.5以上0.3未満) | 外出頻度-年齢、仕事-年齢 |
| 強い逆の相関 (-1以上0.5未満) | なし |

表 7-1 に示すように、強い相関は正逆いずれもない。正の相関に関しては、いくつかの組み合わせが認められ、これらはいずれも直感的理解を妨げない。逆の相関に関しては、外出の頻度（増減）が減り、無職である可能性が高いのは高齢者であろうことから、同様

に自明な結果となった。

さらに、相関関係が認められた項目に関して、それぞれの相関係数とその有意確率 5 % での p 値を表 7 - 2 に示す。この結果から、いずれの相関係数も偶然にすぎないとする帰無仮説は棄却できる。

表 7 - 2. 相関係数と p 値

| | | | | | |
|-------------|-------|---------|-----------|-------|---------|
| 睡眠 - 栄養 | 0.46 | 2.2e-16 | ストレス - 不安 | 0.44 | 2.2e-16 |
| 会話 - 外出回数 | 0.41 | 2.2e-16 | 不安 - 頼れる人 | 0.34 | 2.2e-16 |
| 仕事 - 外出頻度 | 0.40 | 2.2e-16 | 支援 - 頼れる人 | 0.42 | 2.2e-16 |
| ストレス - 頼れる人 | 0.41 | 2.2e-16 | 支援 - 不安 | 0.32 | 2.2e-16 |
| ストレス - 運動 | 0.34 | 2.2e-16 | 外出頻度 - 年齢 | -0.32 | 2.2e-16 |
| 仕事 - 年齢 | -0.50 | 2.2e-16 | | | |

表 7 - 2 より、支援を求めることが、ストレスを感じることに、不安や悩みを持つこと、運動不足でること、頼れる人を求めることにつながる傾向にあるとは、必ずしも言えない。すなわち、仮説 1 は成立しない。

8. 仮説 2 に関する分析結果

「支援の要望の有無」を独立変数とする重回帰分析結果を表 8 - 1 に示す。

表 8 - 1. 重回帰分析の結果

| 説明変数 | 係数 | p 値 | 説明変数 | 係数 | p 値 |
|------|-------|---------|------|--------|----------|
| 切片 | 1.39 | 2e-16 | 頼れる人 | 0.29 | 2e-16 |
| 性別 | -0.13 | 0.0026 | 配偶者 | 0.08 | 1.58e-06 |
| 栄養 | 0.17 | 7.1e-08 | 子供 | -0.048 | 0.005 |
| 運動 | 0.06 | 0.01 | 仕事 | 0.046 | 1.7e-07 |
| ストレス | 0.05 | 0.049 | 不安 | 0.19 | 4.9e-11 |
| 会話 | -0.64 | 0.025 | | | |

重回帰分析においては、AIC 基準で除外されるか、p 値が 0.05 を超えた説明変数についてはあらかじめ除外している。説明変数の係数はいずれも小さい。R 二乗値が 0.286 であることから、「支援の要望の有無」は、これらの説明変数をもって近似することはでき

ないと考えられる。すなわち、「支援の要望の有無」は、他の説明変数に影響を受けているとは言えず、仮説2は成立しない。

9. 仮説3に関する分析結果

因子分析を行う上で、選択する因子数は図9-1より4点とする。

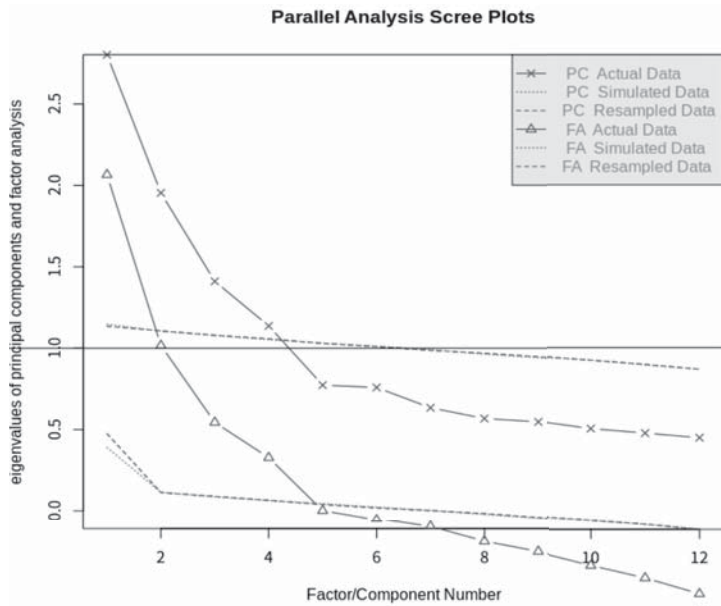


図9-1. Screeプロットによる結果

因子負荷量を表9-1に、因子ダイアグラムを図9-2に示す。

表9-1. 因子負荷量

| | ML 1 | ML 2 | ML 4 | ML 3 | 独立性 |
|------|-------|-------|-------|-------|------|
| 年齢 | 0.01 | -0.71 | 0.13 | -0.05 | 0.51 |
| 外出増減 | -0.14 | 0.01 | 0.71 | -0.12 | 0.58 |
| 外出回数 | -0.01 | 0.48 | 0.24 | -0.03 | 0.68 |
| 栄養 | 0.01 | 0.04 | -0.06 | 0.56 | 0.70 |
| 睡眠 | -0.10 | -0.03 | -0.03 | 0.88 | 0.32 |
| 運動 | 0.07 | 0.02 | 0.36 | 0.18 | 0.75 |
| ストレス | 0.48 | -0.17 | 0.26 | 0.08 | 0.52 |

| | | | | | |
|------|------|-------|-------|-------|------|
| 会話 | 0.03 | 0.06 | 0.64 | -0.04 | 0.57 |
| 頼れる人 | 0.77 | -0.04 | -0.11 | -0.09 | 0.52 |
| 仕事 | 0.05 | 0.72 | -0.01 | -0.01 | 0.47 |
| 不安 | 0.49 | -0.06 | 0.00 | 0.00 | 0.65 |
| 支援 | 0.68 | 0.19 | -0.01 | -0.01 | 0.61 |

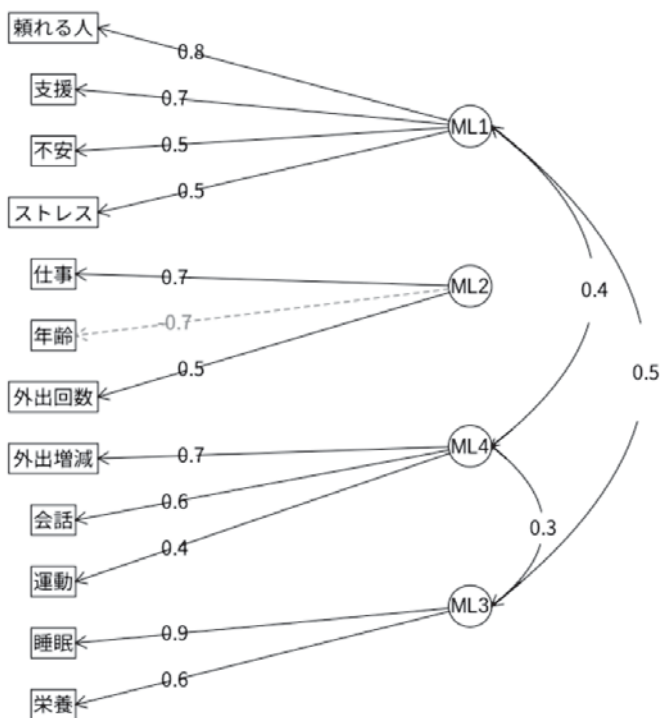


図 9 - 2. 因子ダイアグラム

これらの結果から、因子を表 9 - 2 のように解釈できる。

表 9 - 2. 因子の解釈

| 因子 | 解釈 |
|------|-------------|
| ML 1 | 頼れる人への SOS |
| ML 2 | 仕事の制限 |
| ML 4 | 身体コミュニケーション |
| ML 3 | 栄養と睡眠 |

因子 ML 1 が仮説 3 を説明する因子であることがわかる。ここでは因子 ML 4 を取り上げ、ML 1 と ML 4 でプロットする。

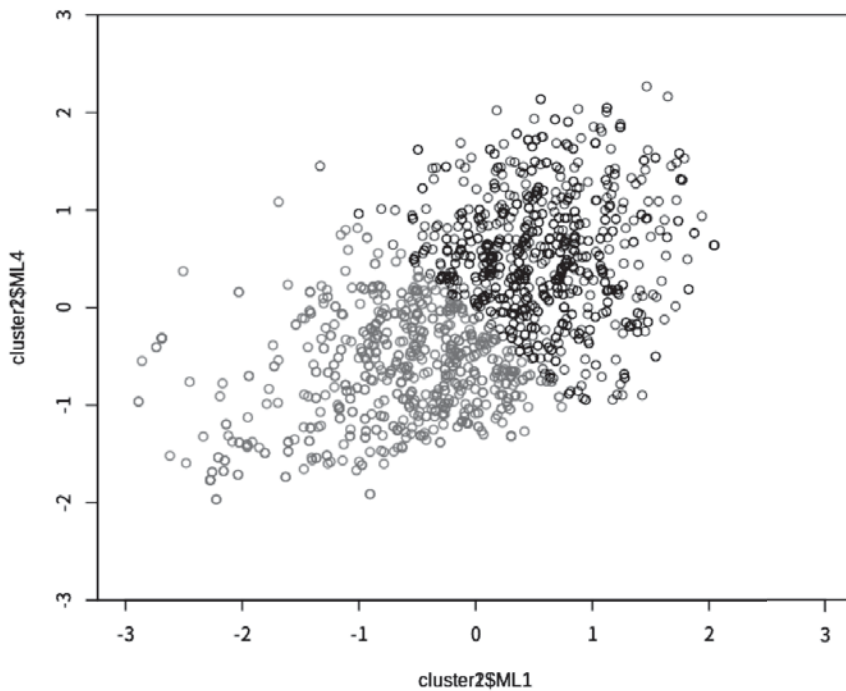


図 9 - 3 . ML 1 と ML 4 でのプロット

図 9 - 3 では、K-means 法によってクラスタリングを行っており、灰色でプロットされている集団が、ML 1 と ML 4 の両方で低い評価となっている。この集団は、外出回数減に伴う他人との会話の回数減や運動不足に不満を持っており (ML 4)、ストレスや不安を抱え、頼れる人や支援を求める傾向にある (ML 1)。すなわち、仮説 3 は成り立つことがわかる。

10. 仮説 4 に関する分析

上記の黒いプロットと赤いプロットで示された集団を、それぞれ「強者」「弱者」とする。自由記述欄の回答文章をそれぞれ強者と弱者で分別し、それぞれの文章に対して語句抽出を行った。抽出対象の語句は、名詞、動詞、形容詞、形容動詞の限定している。

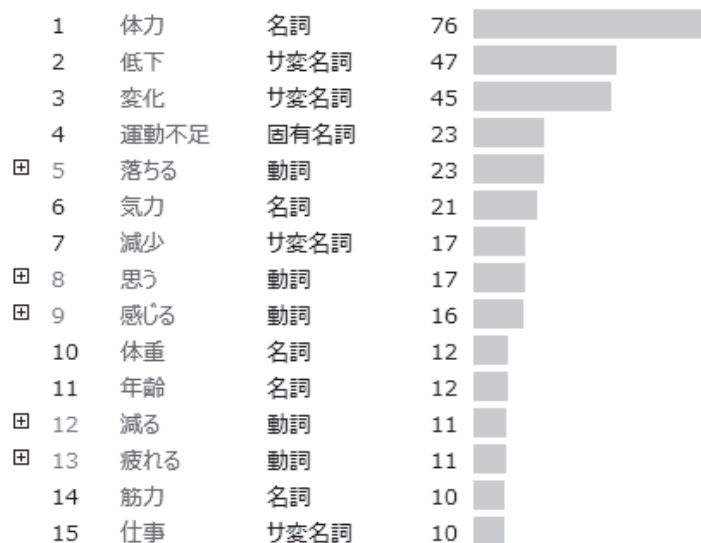


図10-1. 強者の10-1における頻出語句

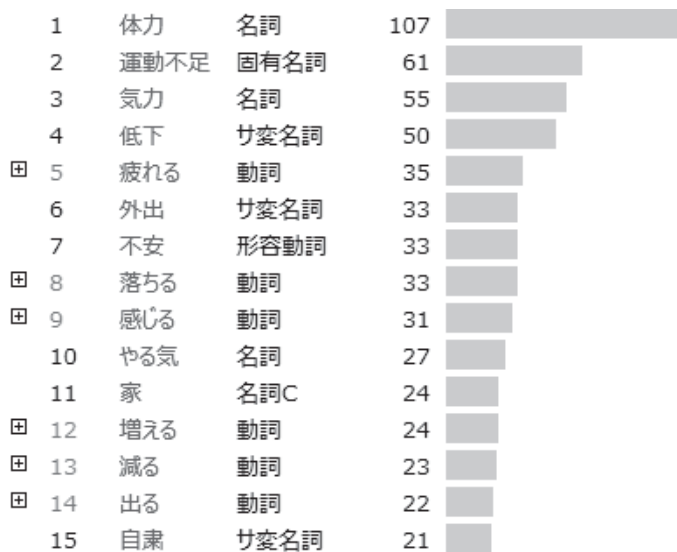


図10-2. 弱者の10-1における頻出語句

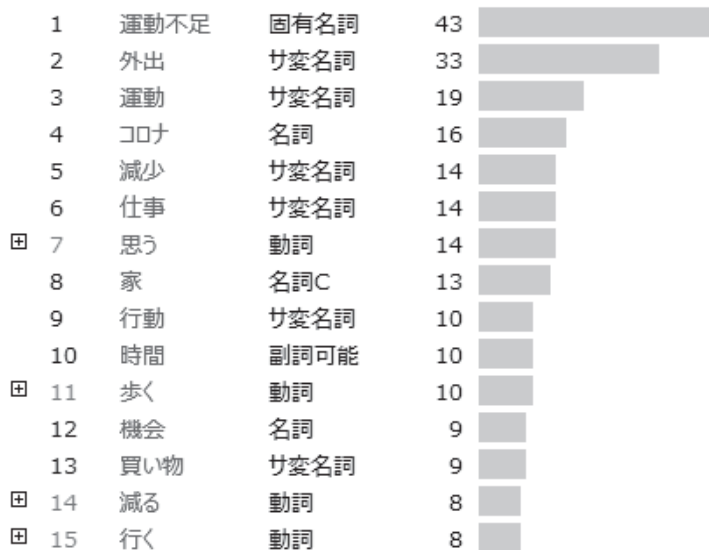


図10-3. 強者側の10-2における頻出語句

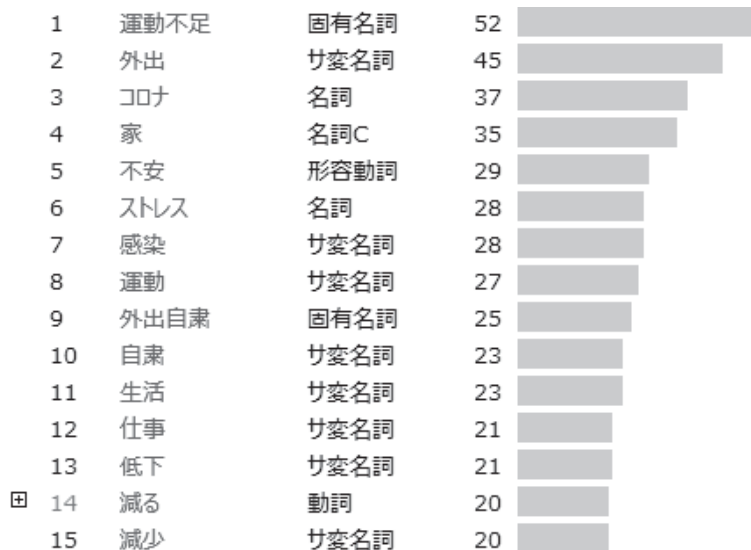


図10-4. 弱者側の10-2における頻出語句

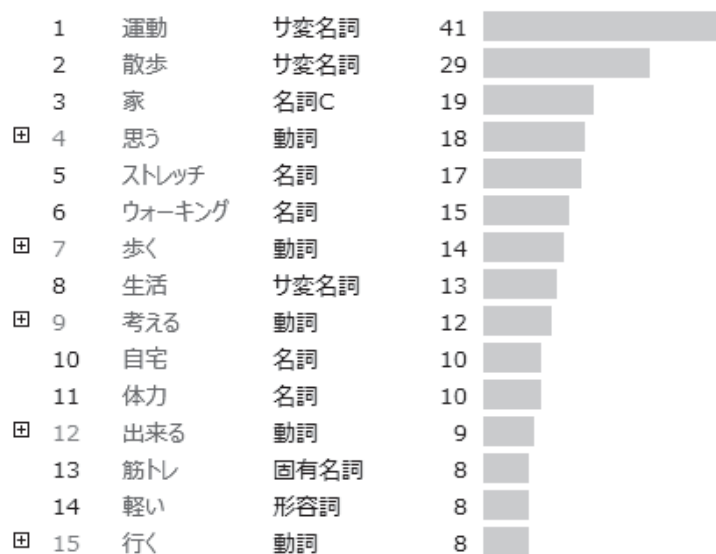


図10-5. 強者の10-3における頻出語句

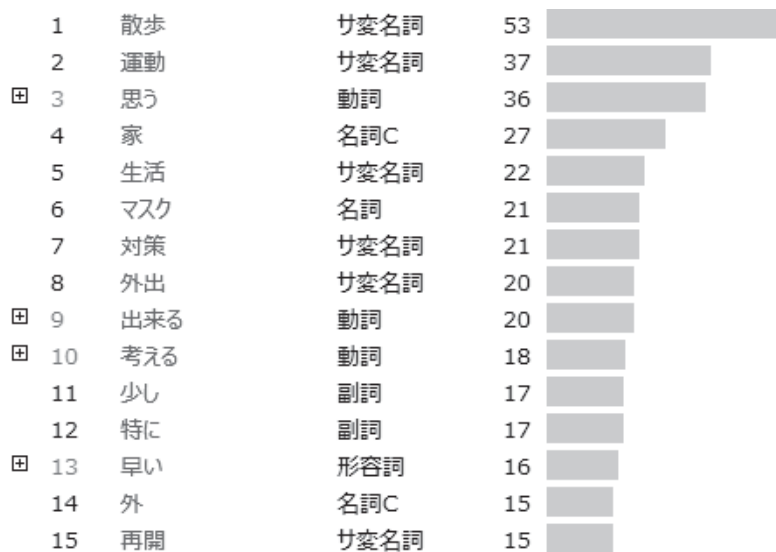


図10-6. 弱者側の10-3における頻出語句

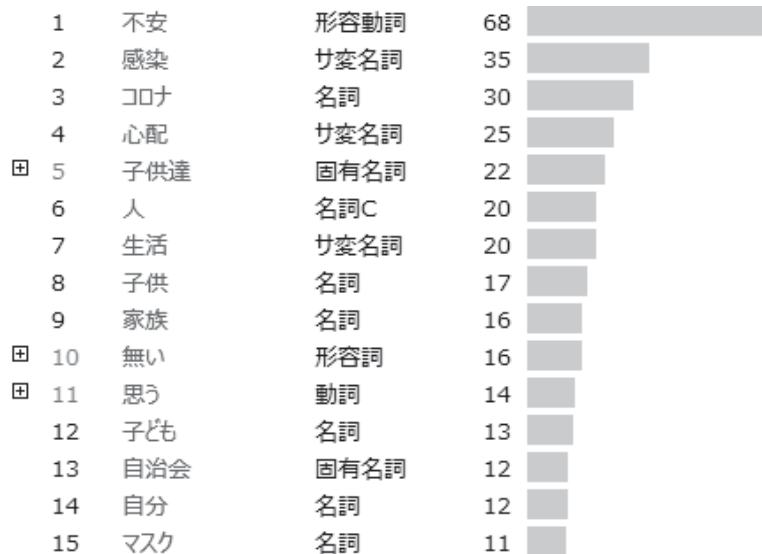


図10-7. 強者側の11における頻出語句

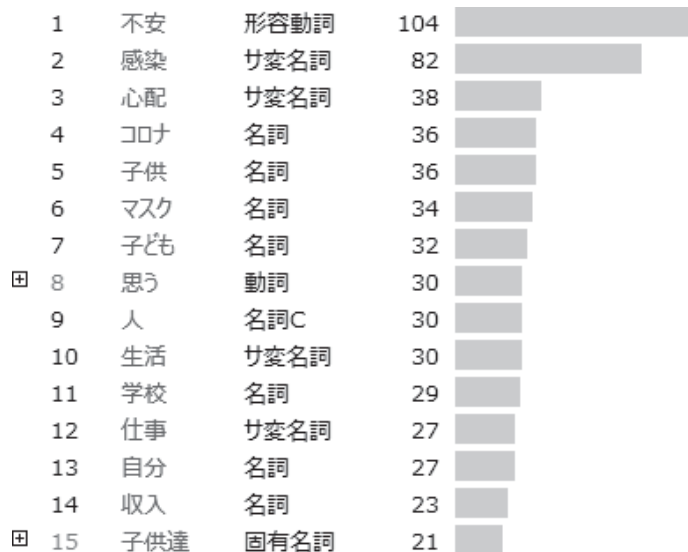


図10-8. 弱者側の11における頻出語句

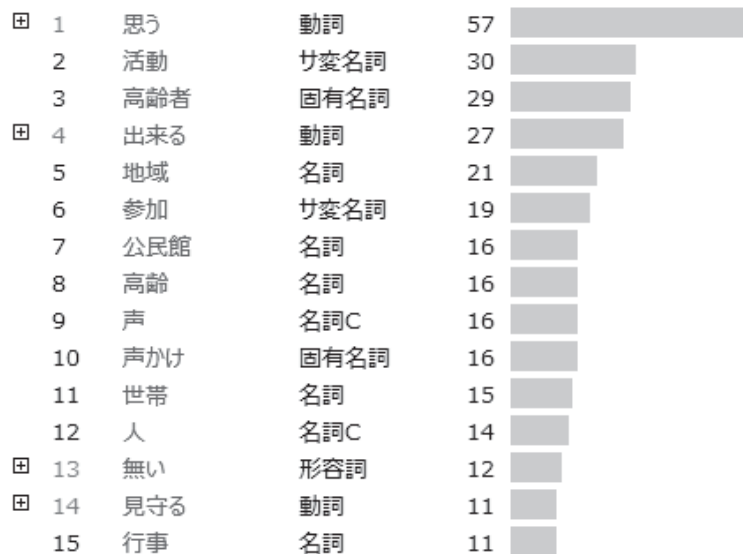


図10-9. 強者の12における頻出語句

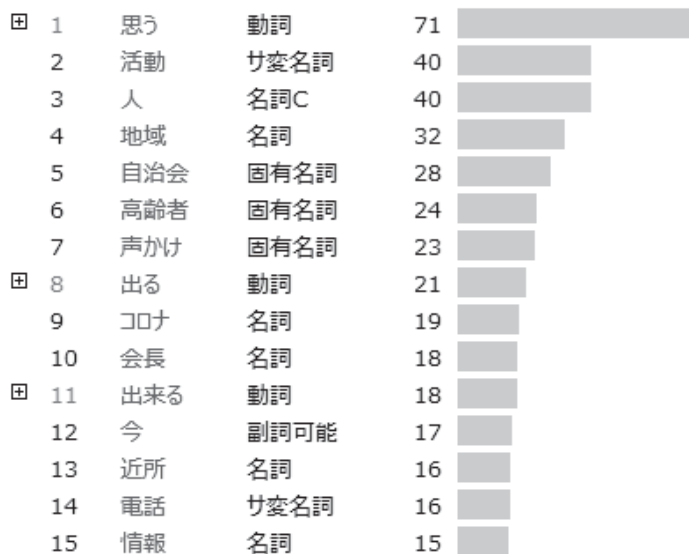


図10-10. 弱者側の12における頻出語句

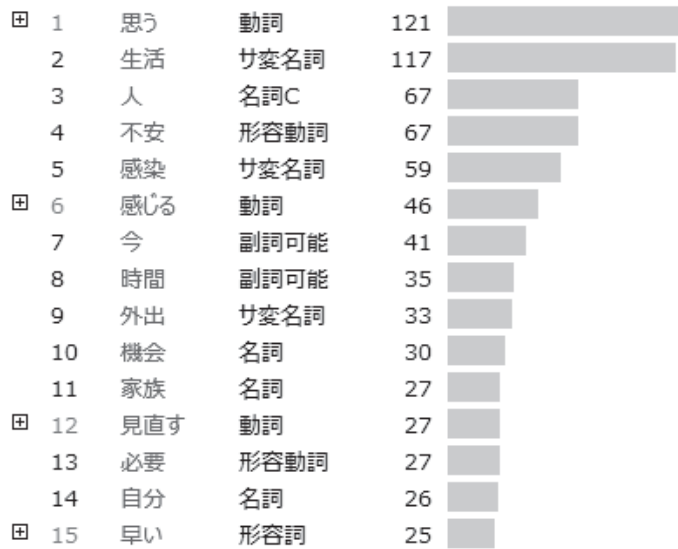


図10-11. 強者側の13における頻出語句

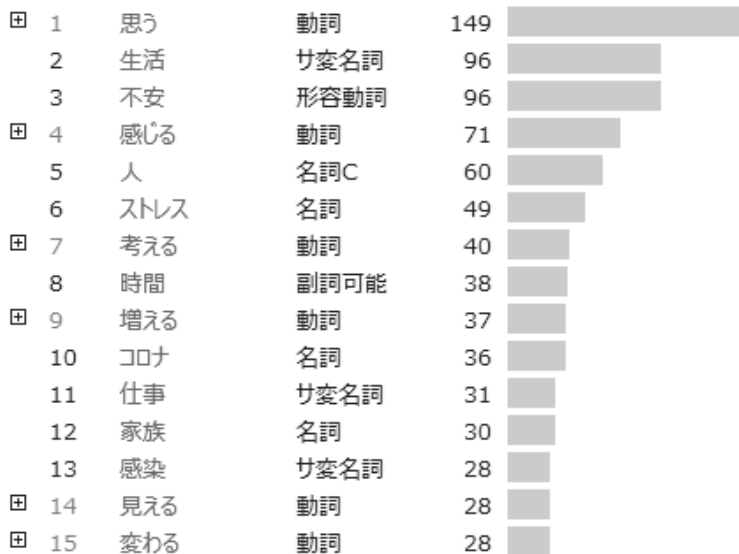


図10-12. 弱者側の13における頻出語句

これらの結果から、2点が挙げられる。1点目は、設問に関わらず同様な語句が頻出しているという点である。これは、設問の意図が十分に伝わらず、同様な回答が繰り返されたと考えられる。2点目は、強者と弱者とで違いが見られなかったという点である。これも、ML1やML4において相対的に高い場合であっても、強いて言えば弱者と同様な感

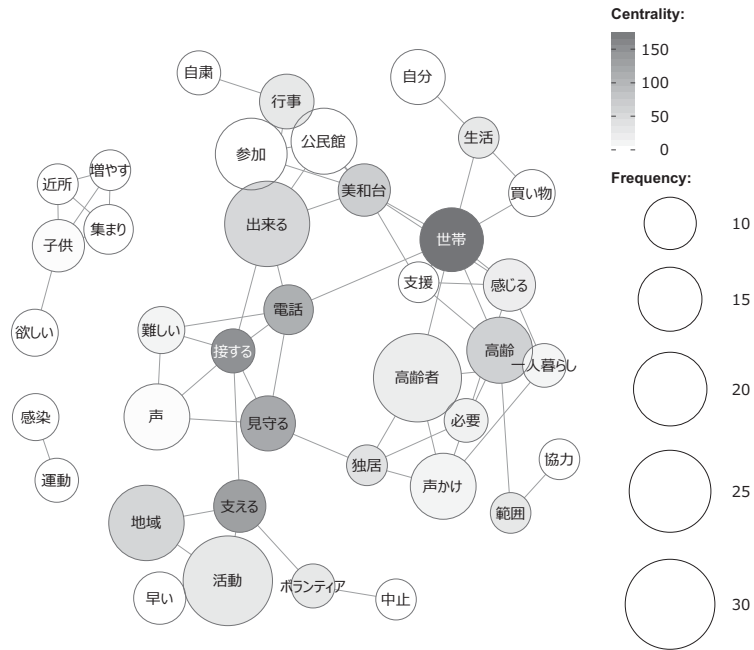


図10-13. 強者側の12における共起ネットワーク

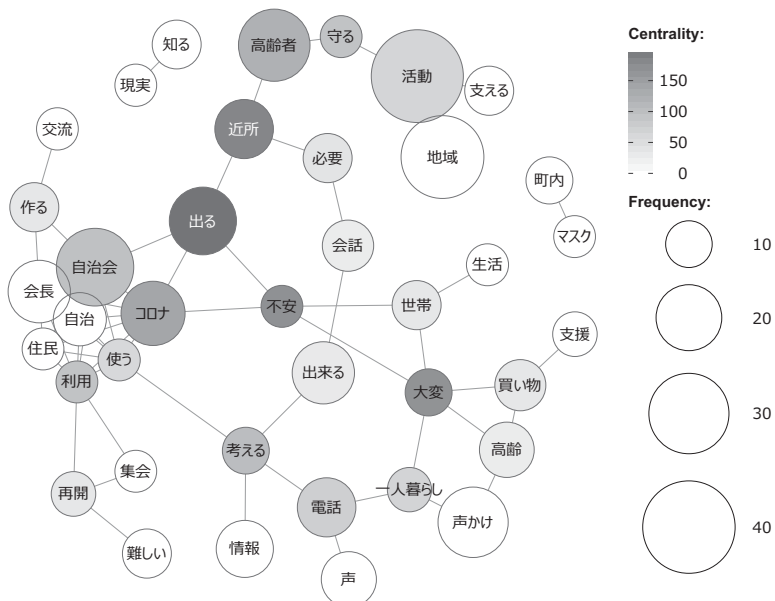


図10-14. 弱者側の12における共起ネットワーク

想になったと考えられる。

設問12は、美和台社協が独自の行政サービスの可能性を見出すために設定された。そこで、強者側と弱者側でこの回答文にどのような差異があるかを、図10-13、図10-14に、共起ネットワーク分析の結果として示す。

共起ネットワーク分析では、近接して出現しがちな語群がノードとラインで表現され、近接して出現しがちな語群だけで構成されたサブグラフと、サブグラフどうしを接続するノードによってテキスト全体の語の使われ方が表現される。大きなノードほど、出現回数が多く、濃いノードほど、サブグラフどうしをつなぐ媒介中心性が高い。媒介中心性の高さは、接続される語の多様性を、すなわち文意の多様性や記入した世帯のユニーク数を表すと考えられる。

強者側と弱者側とでは、そもそも使用されている語に違いがみられる。強者側では「子供」「集まり」「欲しい」や「公民館」「行事」などで構成されるサブグラフを有する一方、弱者側では「自治会」「会長」や「現実」「知る」などのサブグラフ見られる。

媒介中心性が高い語としては、強者側では「世帯」「電話」「接する」「見守る」「支える」などが挙げられ、弱者側では「近所」「出る」「不安」「大変」「高齢者」「コロナ」などが挙げられる。

これらのことから、以下のことが推察される。まず、使用される語の差異に関しては、強者側では、子どもの集まりや公民館など校区全体に共通する社会資本に言及がみられる一方、弱者側では、個別の町内（「自治会」とは個別の町内会を、「会長」とは個別の町内会長を表す）における課題を掲げている。また、媒介中心性の差異に関しては、強者側が支え合い活動への参加や具体的な行動案に言及する人が多いことを示し、弱者側では町内で感染者が出た場合を危惧していることがわかる。すなわち、強者側では、個別の町内会という枠を超えて校区全体に対して何をすべきか、積極的に考察する姿勢が伺える一方で、弱者側ではむしろ個別の町内会における課題や、支え合い活動の結果として感染が広がることを危惧していると考えられる。

美和台社協としては、独自の福祉サービスを考案する場合は、因子 ML 1 と ML 4 で弱者側と判定された世帯からの（切実な）意見を吸い上げることも大切ではあるが、むしろ強者側と判定された世帯による具体的行動につながるブレインストーミングが有効であると考えられる。

謝辞

本研究は、美和台校区社会福祉協議会との共同研究「緊急事態宣言下の生活意識調査と自治会施策への検討」の一環として行われました。美和台校区自治協議会 山下喜久男会長および同校区社会福祉協議会会長 城下邦芳会長に心より御礼申し上げます。

参考文献

- NHK. (2020年9月14日). 9月14日新たに確認された感染者数. 参照先: 新型コロナウイルス特設サイト: <https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data/>
- ソフトブレン・フィールド株式会社. (2020年6月30日). 「新型コロナウイルス感染拡大前後における生活と意識の変化」. 参照先: プレスリリース: <https://www.sbfield.co.jp/press/20200630-15491/>
- 株式会社サーベイリサーチセンター. (2020年3月11日). 【緊急調査】新型コロナウイルス感染症に関する国民アンケート. 参照先: 自主調査レポート: <https://www.surece.co.jp/research/3282/>
- 京都府社会福祉協議会. (2020年3月31日). 新型コロナウイルス感染拡大による影響に関する緊急アンケート集計結果について. 参照先: http://www.kyoshakyo.or.jp/news/post_174.html
- 経済同友会. (2020年05月20日). 新型コロナウイルスについて主婦にアンケート. 参照先: PRTIMES.
- 経済同友会. (2020-05). 緊急アンケート企業の新型コロナウイルス対策と課題. 経済同友会.
- 公益財団法人さわやか福祉財団. (2020年05月13日). 「コロナ禍と全国助け合い活動の現状」緊急アンケート調査結果より. 参照先: <https://www.sawayakazaidan.or.jp/news/covid-19-enq20200424-0430/>
- 厚生労働省. (2020年9月13日). 新型コロナウイルス感染症の現在の状況と厚生労働省の対応について (令和2年9月13日版). 参照先: 厚生労働省: https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_13537.html
- 宏谷口. (2020-06). 財務の現場は今: 日本CFO協会のアンケート調査をもとに (コロナショックにどう対応するか: 決算・税務・法務). 中央経済社.
- 産労総合研究所. (2020-06-01). 新型コロナウイルス感染症に関するアンケート集計結果 (新型コロナウイルス感染症と病院経営). 産労総合研究所.
- 小山史穂子研時竹内. (2020). COVID-19感染拡大下における歯科受診行動—どんな人が歯科受診に不安を抱いているのか—. 口腔衛生学会雑誌.
- 新建築社. (2020-05). 緊急アンケート新型コロナウイルス感染症の影響と対応: パンデミックと建築・都市. 新建築社.
- 静岡県清水区社会福祉協議会. (2020年08月21日). コロナ禍で地域の方々の困りごとを尋ねる ～在宅高齢者の生活アンケートを実施～. 参照先: <https://www.shizuoka-shakyo.or.jp/blog/2020/08/21/%E3%82%B3%E3%83%AD%E3%83%8A%E7%A6%8D%E3%81%A7%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E3%81%AE%E6%96%B9%E3%80%85%E3%81%AE%E5%9B%B0%E3%82%8A%E3%81%94%E3%81%A8%E3%82%92%E5%B0%8B%E3%81%AD%E3%82%8B%E3%80%80%E3%80%80%E3%80%80/>
- 全国ホームヘルパー協議会. (2020年3月23日). 新型コロナウイルス感染症によるホームヘルパー業務への影響等に関する緊急アンケート集計結果. 参照先: https://www.shakyo.or.jp/ActionReport/ActionReport_v166-0401-homehelper-research.pdf
- 東京ボランティア・市民活動センター. (2020年04月23日). 居場所活動団体向けアンケート調査結果報告書. 参照先: TVAC レポート: <https://www.tvac.or.jp/download/0149f0dbd0.pdf>
- 美和台校区自治協議会. (2020). 新型コロナウイルス感染症対策の影響による日常生活上での困りごとアンケート

ト 緊急調査. 参照先：https://docs.google.com/forms/d/1wkdsok8LmyqZmNHegBwnVfhZMX3KLNMu4qxmrfgcnxw/viewform?ts=5edc759b&edit_requested=true

福岡県. (2020年9月13日). 福岡県内での発生状況. 参照先：新型コロナウイルス感染症ポータルページ：<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/covid19-hassei.html>

福岡市. (2020年3月). 美和台校区データ集. 福岡市、福岡県.

福岡市. (2020年3月). 美和台校区データ集. 参照先：東区の各校区データ集：https://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/52532/1/r1_hg9_miwadai_book.pdf?20200426164532

美和台にお住いの皆様へ

令和2年5月31日
美和台校区自治協議会
会長 山下喜久男

**新型コロナウイルス感染症対策の影響による
日常生活上でのお困りごとアンケート緊急調査**

家事や育児を主に担当されている方に、生活状況についてお尋ねします。該当次項に○印をつけてください。

1. 町内会 _____ 2. 性別： 女 男 3. 年齢 _____ 歳代 4. お名前（任意） _____

4. 家族構成 ①各家族専業主婦（夫）②各家族共働き世帯 ③単身世帯 ④高齢夫婦のみの世帯 ⑤親族同居世帯

5. 外出について

5-1. 外出の頻度 ①大幅減少 ②やや減少 ③変化なし ④やや増加 ⑤意識して増加

5-2. 外出の回数 ①外出はしない ②月に数回程度 ③週に2, 3回程度 ④一日おき程度 ⑤毎日

5-3. 外出の理由 ①仕事 ②買物 ③通院 ④銀行 ⑤役所 ⑥郵便局 ⑦食事 ⑧散歩など（複数選択可）

6. 体調管理について

6-1. 栄養管理 ①全く不足 ②やや不足 ③普段通り ④割と満足 ⑤十分満足

6-2. 睡眠の質量 ①全く不足 ②やや不足 ③変化なし ④割と満足 ⑤十分満足

6-3. 運動の質量 ①全く不足 ②やや不足 ③変化なし ④割と満足 ⑤十分満足

6-4. ストレス ①非常に強い ②やや強い ③ある ④あまりない ⑤全くない

7. 人間関係について

7-1. 他人との会話 ①減少 ②やや減少 ③普段通り ④やや増加 ⑤増加

7-2. 頼れる人が欲しい ①強く思う ②やや思う ③どちらでもない ④あまり思わない ⑤思わない

8. 家庭生活について

8-1. 配偶者との関係 ①配偶者はいない ②悪くなった ③やや悪くなった ④変化なし ⑤やや良くなった ⑥良くなった

8-2. 子どもとの関係 ①配偶者はいない ②悪くなった ③やや悪くなった ④変化なし ⑤やや良くなった ⑥良くなった

8-3. 仕事との関係 ①無職 ②会社都合で退職 ③自己都合で退職 ④会社都合で労働時間減 ⑤自己都合で労働時間減 ⑥変化なし

9. 今後の生活に関して

9-1. 不安や悩み ①大幅に増えた ②やや増えた ③変化なし ④あまりない ⑤ほとんどない

9-2. 支援などのご要望 ①以前から必要としている ②いま必要としている ③今後は必要になると思う ④あまりない ⑤必要ない

10. 気力や体力の変化について、具体的にお聞かせください。

10-1. 気力や体力が変化した点： _____

10-2. 考えられる原因： _____

10-3. お考えの対策： _____

11. 不安になったり、新たな悩みとなったりした点について、具体的にお聞かせください。

12. 地域の支え合い活動に望むことや、出来そうなことをお聞かせください。

13. 今回の災害ともいえる感染症の世界的流行が、生活全般に与えた感想をお聞かせください。
